



**PUBLIC (公開)**

BusinessObjects Enterprise XI

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

# Java Portal Integration Kit for Oracle 10

# 目次

<b>1</b>	ドキュメント履歴.....	<b>3</b>
<b>2</b>	このガイドについて.....	<b>4</b>
2.1	概要.....	4
<b>3</b>	<b>Portal Integration Kit</b> のインストール.....	<b>5</b>
3.1	インストールの概要.....	5
3.2	前提条件.....	5
3.3	BI プラットフォームポートレットのインストール.....	6
	BI プラットフォーム Web Tier をインストールする.....	6
	ポータル統合 .war mk ファイルをポータルサーバにデプロイする.....	6
	web.xml ファイルをマージする.....	7
	weblogic.xml を更新する.....	7
	com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.sso.war ファイルをインポートする.....	7
	ポートレットのテンプレートを作成する.....	8
3.4	信用できる認証の有効化.....	8
	信用できる認証をポータルサーバに設定する.....	9
<b>4</b>	ポートレットのデプロイ.....	<b>10</b>
4.1	ポートレットのデプロイについて.....	10
	ドキュメントビューポートレットをデプロイする.....	10
	ドキュメント一覧ポートレットをデプロイする.....	11

# 1 ドキュメント履歴

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	初期リリース

## 2 このガイドについて

### 2.1 概要

このガイドでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 Portal Integration Kit のインストールと設定について説明します。

#### このガイドの対象読者

このガイドは、Portal Integration Kit のインストールを担当する管理者を対象としています。Portal Server の操作に慣れていること、また SAP Crystal Reports および BI プラットフォームシステムの操作に関する知識があると役に立ちます。

## 3 Portal Integration Kit のインストール

### 3.1 インストールの概要

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 Portal Integration Kit のインストールでは、次の作業を行います。

- ポータルサーバマシンへの BI プラットフォームの Web 層コンポーネントのインストール
- WebLogic ポータルサーバへのポータル統合 .war ファイルのデプロイ
- ポータル統合用の web.xml ファイルの更新
- ポータルテンプレートの作成

ポートレットを使用すると、BI プラットフォームのレポート表示機能と配布機能を統合できます。BI プラットフォームのアーキテクチャの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 管理者ガイド*の「アーキテクチャ」の章を参照してください。

### 3.2 前提条件

このガイドに記載されているインストール手順は、次のシステムが準備され、相互通信が可能であることが前提となっています。

- ビジネスインテリジェンスプラットフォーム
- Oracle WebLogic Portal

#### ポータル環境の要件

ポータル統合を機能させるには、ポータル環境が次の要件を満たしている必要があります。

- ポータルサーバと、ポータル統合ソフトウェアをホストしている Web アプリケーションサーバ (WAS) とが、共通のドメインを共有している必要があります。
- ポータルサーバと、ポータル統合ソフトウェアをホストする WAS それぞれの Web セッションタイムアウトが一致している必要があります。
- ポータルサーバと、ポータル統合ソフトウェアをホストしている WAS の両方で SSL を使用するか、または両方とも SSL を使用できないことが必要です。2 つのサーバの片方だけで SSL を使用することはできません。

## 3.3 BI プラットフォームポर्टレットのインストール

BI プラットフォーム Portal Integration Kit は、ポータルサーバと同じマシンにインストールし、この作業を行うために必要な権限を持つユーザとしてログオンする必要があります。

BI プラットフォームポर्टレットをインストールするには次の手順を実行する必要があります。

- ポータルサーバマシンに BI プラットフォーム Web 層をインストールします。
- ポータル統合 WAR ファイルをポータルサーバにデプロイします。
- ポータルと BI プラットフォームのシングルサインオン (SSO) を設定します (オプション)。

### 3.3.1 BI プラットフォーム Web Tier をインストールする

1. ポータルサーバマシンで Web Tier のみを選択して、BI プラットフォームのカスタムインストールを実行します。

#### ① 注記

BI プラットフォームのインストールの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 インストールガイド*を参照してください。

2. ポータル統合ファイルの保存先フォルダをポータルサーバマシンに作成し、そのディレクトリに `.war` ファイルを展開します。

### 3.3.2 ポータル統合 `.war` ファイルをポータルサーバにデプロイする

1. `com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.war` ファイルを BI プラットフォームデプロイメントの `<<InstallDir>>\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\warfiles\portlet\javaportlets` フォルダからポータルサーバマシンにコピーします。
2. `.war` ファイルをローカルディレクトリに解凍します。
3. WebLogic (IDE) のワークショップで、EAR プロジェクトおよび WAR プロジェクトを作成します。
4. WAR プロジェクトが開いているときに、パッケージエクスプローラを選択して [\[WebContent\]](#) を右クリックします。
5. **▶ ポータル Web プロジェクト ▶ インポート** を選択します。  
インポートウィザードが表示されます。
6. **▶ 全般 ▶ ファイルシステム** を選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。
7. `.war` ファイルを解凍したフォルダを選択し、[\[OK\]](#) をクリックします。
8. 以下のファイルを除くすべてのファイルをディレクトリの中から選択します。
  - `\META-INF` フォルダ
  - `\WEB-INF\web.xml`
9. [\[完了\]](#) をクリックします。

### 3.3.3 web.xml ファイルをマージする

1. com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.war ファイルを解凍したフォルダで、メモ帳または別のテキストエディタを使用して WEB-INF¥web.xml ファイルを開きます。
2. コメントタグ <BO Start> と <BO End> に挟まれているテキストを、開始タグと終了タグを含めてコピーします。
3. IDE を使用して、¥WebContent¥WEB-INF¥web.xml ファイルを開いて編集します。
4. WEB-INF¥web.xml ファイルのテキストを行 11 の </welcome-file-list> タグの後に貼り付けます。
5. 貼り付けた情報の後に以下の要素を追加します。

```
<security-constraint>
<web-resource-collection>
<web-resource-name>Administrator's
Page</web-resource-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
<http-method>GET</http-method>
<http-method>POST</http-method>
</web-resource-collection>
<auth-constraint>
<role-name>PortalSystemDelegator</role-name>
</auth-constraint>
</security-constraint>
<security-role>
<role-name>PortalSystemDelegator</role-name>
</security-role>
```

6. WebLogic の war 名が com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.auth.war ファイル内の名前またはファイルをインポートしたときに割り当てた名前と一致していることを確認します。
7. ¥WebContent¥WEB-INF¥web.xml ファイルを保存します。

### 3.3.4 weblogic.xml を更新する

1. WebLogic の .war ファイルを解凍したフォルダで weblogic.xml ファイルを見つけ、メモ帳または別のテキストエディタを使用して編集用に開きます。
2. 以下の要素を wls:library-ref の終了タグの後に追加します。

```
<wls:security-role-assignment>
    <wls:role-name>PortalSystemDelegator</wls:role-name>
    <wls:principal-name>Administrators</wls:principal-name>
</wls:security-role-assignment>
```

3. ファイルを保存して閉じます。

### 3.3.5 com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.sso.war ファイルをインポートする

1. IDE で、**ファイル** > **インポート** を選択します。  
インポートウィザードが表示されます。

2. [Web]を展開し、[Web ファイル]を選択して、[次へ]をクリックします。
3. [WAR インポート]画面で、<InstallDir>%SAP BusinessObjects%SAP BusinessObjects Enterprise XI  
4.0%warfiles%portlet%javaportlets%com.sap.businessobjects.portlets.weblogic.sso.  
warを参照して選択します。

#### ① 注記

異なる Web プロジェクト名を使用する場合は、ポータル WAR プロジェクトの web.xml ファイルの WebLogic war 名を変更し、選択した名前と一致させておく必要があります。

4. 同じ画面で、[EAR にプロジェクトを追加し、現在の EAR プロジェクト名を選択する]チェックボックスを選択して、[完了]をクリックします。

2つの WAR プロジェクトが1つの EAR プロジェクトに関連付けられている必要があります。この WAR ファイルはログオンに必要です。この WAR プロジェクトのコンテンツは変更しないでください。

## 3.3.6 ポートレットのテンプレートを作成する

1. BI プラットフォームコンテンツの新しいポータルを作成するか、またはコンテンツを追加する既存のページのワークスペースを開きます。
2. [プロパティ] タブの [レイアウトの種類] で、[単一列レイアウト]を選択します。
3. デザインパレットからドキュメント一覧オブジェクトまたはドキュメント表示オブジェクトのいずれかをワークスペース上の目的の場所にドラッグします。
4. ワークスペースを保存します。

## 3.4 信用できる認証の有効化

ポータルユーザがシステムに個別にログインしなくても BI プラットフォームデプロイメント上の情報にアクセスできるようにするために、2つのシステム間にシングルサインオン (SSO) を設定することができます。

SSO を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- BI プラットフォームシステムで SSO を有効化し、新しい共有シークレットキーを生成します。手順については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 管理者ガイドを参照してください。
- WebLogic ポータルサーバマシンに新しい共有キーを保存し、このキーの場所を使用して WebLogic を設定します。

#### ① 注記

セキュリティ上の理由から、信用できる認証を HTTPS なしで有効化しないでください。信用できる認証を https なしで有効にすると、URL が認証されていないユーザに公開されるため、セキュリティ侵害とみなされます。セキュリティ侵害を防ぐために、有効な証明書を使用してユーザーの情報を検証できます。詳細については、[1388240](#) を参照してください。



## LDAP/SiteMinder または Windows AD/Vintela を使用しているシステム

### ① 注記

システムの認証に LDAP と SiteMinder、または Windows AD と Vintela を組み合わせて使用している場合は、信用できる認証を有効にする必要はありません。

システムに SSO を設定するには、次の手順を実行します。

- Central Management Server、ポータルサーバ、およびクライアントマシンが、LDAP/SiteMinder または Windows AD/Vintela を使用するように正しく設定されていることを確認します。
- `com.sap.businessobjects.portlets.war` の `web.xml` で、認証の種類を `secEnterprise` に設定します。
- ユーザがポータルレットにアクセスすると、BI ラUNCHパッドまたは OpenDocument で SSO の使用が試行され、ユーザセッションが確立されます。

### 3.4.1 信用できる認証をポータルサーバに設定する

この手順を実行する前に、BI プラットフォームシステムで信用できる認証を有効化し、生成された `TrustedPrincipal.conf` ファイルのコピーをポータルサーバマシンのローカルディレクトリに保存します。

### ① 注記

セキュリティ上の理由から、信用できる認証を HTTPS なしで有効化しないでください。信用できる認証を https なしで有効にすると、URL が認証されていないユーザに公開されるため、セキュリティ侵害とみなされます。セキュリティ侵害を防ぐために、有効な証明書を使用してユーザの情報を検証できます。詳細については、[1388240](#) を参照してください。

1. ポータルサーバマシンで `C:\%bea%\user_projects\domains\<BI platform portal domain%\bin` ディレクトリに移動します。
2. `startWebLogic.cmd` ファイルを見つけ、メモ帳または別のテキストエディタを使用してファイルを開きます。
3. `set JAVA_OPTIONS=%SAVE_JAVA_OPTIONS%` を見つけ、以下のテキストを追加します。

```
-Dbobj.trustedauth.home=<C:\%<Dir>%\TrustedPrincipal.conf
```

`<C:\%<Dir>` は、ポータルサーバマシン上の `TrustedPrincipal.conf` ファイルの場所に置き換えます。

4. `startWebLogic.cmd` ファイルを保存して閉じます。

## 4 ポートレットのデプロイ

### 4.1 ポートレットのデプロイについて

BI プラットフォームポータル統合キットを使用してポータルサーバにデプロイできるポートレットには、デフォルトでは次の2種類があります。ドキュメントビューポートレットおよびドキュメント一覧ポートレットです。

#### ドキュメントビューポートレット

これは、作成できる最も単純なタイプのポートレットです。デプロイすると、ポータルの管理者が選択した1つのレポートが表示されます。

ポートレットが表示されるとレポートが表示され、ユーザはレポート内を通常どおりに移動することができます。ただし、デフォルトのレポートに他のレポートへのリンクが含まれていない限り、ユーザは他のレポートに移動することができません。ポートレットに表示されるコンテンツは、ポータルページのデザイナーまたは管理者が設定します。

#### ドキュメント一覧ポートレット

このポートレットには、BI ラウンチパッドと同じ機能が多数用意されています。ユーザは、アクセス権を持つすべてのレポートへの移動、個人用のフォルダの表示、およびカテゴリの参照を行うことができます。また、ポートレットを使用して、レポートの最新表示のスケジュール、手動でのレポートの最新表示、BI コンテンツの検索、およびユーザの基本設定を行うことができます (適切なアクセス権を持っている場合)。

#### 4.1.1 ドキュメントビューポートレットをデプロイする

1. WebLogic Portal 管理コンソールを開き、管理者としてログオンします。
2. BI プラットフォームコンテンツを追加する新しいポータルを作成するか、既存のポータルを開きます。
3. [\[.portal ファイルの選択\]](#) オプションを使用して新しいデスクトップを作成します。
4. 画面の右上隅にある [\[編集\]](#) をクリックします。
5. (SSO のみ) [\[シングルサインオンの CMS アドレス\]](#) ボックスに、BI プラットフォーム Central Management Server (CMS) のアドレスを入力します。  
ポータルに SSO を使用していない場合は、次の手順に進みます。
6. [\[OpenDocument URL\]](#) ボックスに、OpenDocument の URL を入力します。  
たとえば、「`http://BOEServer:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp`」と入力します。

7. 必要に応じて、ポータル幅と高さを入力します。
8. [次へ] をクリックします。  
[ドキュメント ID] ボックスおよび BI プラットフォームリポジトリのドキュメント一覧が表示されます。
9. 次の操作のいずれかを実行します。
  - 表示するドキュメントの CUID がわかっている場合は、それを [ドキュメント ID] ボックスに入力します。
  - ドキュメント一覧を使用して、ポートレットに表示するドキュメントを見つけて選択します。
10. [クエリを送信] をクリックします。  
選択したドキュメントがプレビューされます。
11. ウィンドウを閉じて WebLogic コンソールに戻ります。



## 4.1.2 ドキュメント一覧ポートレットをデプロイする

1. WebLogic Portal 管理コンソールを開き、管理者としてログオンします。
2. BI プラットフォームコンテンツを追加する新しいポータルを作成するか、既存のポータルを開きます。
3. [.portal ファイルの選択] オプションを使用して新しいデスクトップを作成します。
4. 画面の右上隅に表示される [編集] アイコンをクリックします。
5. (SSO のみ) [シングルサインオンの CMS アドレス] ボックスに、BI プラットフォーム Central Management Server (CMS) のアドレスを入力します。  
ポータルに SSO を使用していない場合は、次の手順に進みます。
6. [BI ラUNCHパッド URL] ボックスに、BI ラUNCHパッドの URL を入力します。  
たとえば、「http://BOEServer:8080/BOE/BI」と入力します。
7. [ポートレットの幅] ボックスに「760」ピクセルと入力し、[ポートレットの高さ] ボックスに「450」ピクセルと入力します。  
これらは最小値です。必要に応じてこれらより大きい値を設定できます。
8. [次へ] をクリックします。  
ドキュメント一覧ポートレットのプレビューが表示されます。
9. ウィンドウを閉じて WebLogic コンソールに戻ります。

# 重要免責事項および法的情報

## ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
  - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
  - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

## 外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

## ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

## コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

## 偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。



© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。